

議 事 概 要

1 開会

- ・事務局から開会の挨拶を行い、配布資料の確認と欠席委員の報告、委員の変更を行った。

【配布資料の確認】

- ・会議次第
- ・資料 1 : 委員名簿
- ・資料 2 : 平成 20 年度 環境教育関連事業の実施状況
- ・参考資料 環境教育関連施設連携事業参加施設一覧
- ・参考資料 環境教育へのクリック募金教材寄贈校
- ・参考資料 さっぽろこども環境コンテスト 2008 開催報告書
- ・参考資料 さっぽろこども環境コンテスト 2009 開催チラシ
- ・参考資料 かんきょう元気通信
- ・参考資料 かんきょう元気新聞
- ・参考資料 環境教育関連施策・事業一覧<2008 年度版>
- ・参考資料 平成 21 年度札幌市学校教育の重点

【欠席委員の報告】

- ・森田副会長、米倉委員は欠席。

【委員の変更の連絡】

- ・西村委員の後任として、鷲田委員が参加。

2 挨拶

- ・札幌市環境局環境都市推進部長から挨拶があった。
- ・各委員より、近況報告など、簡単な挨拶があった。

3 議事 (1) : 環境教育関連事業の実施状況について

- ・資料 2、参考資料、札幌市の環境教育ホームページ (http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/) に基づき、事務局から説明を行った。

①実施している事業

<人材の育成>

- ・環境教育リーダー制度、環境保全アドバイザー制度
- ・総合的環境副教材の教員用手引書の作成

<情報の共有・活用>

- ・環境プラザホームページのリニューアル
- ・かんきょう元気通信【新規事業】
- ・かんきょう元気新聞【新規事業】
- ・環境教育関連施設連携事業の実施【新規事業】
- ・環境教育関連施策・事業一覧(平成 21 年度版)の作成
- ・こども環境サミット札幌の参加者へ手紙の送付【フォローアップ事業】

<プログラムの作成>

- ・総合的環境副教材の修正・教員用手引書の作成

<機会づくり・場づくり>

- ・校外学習用バス貸出
- ・環境教育施設バスツアー
- ・環境教育へのクリック募金
- ・環境プラザにおける総合学習支援
- ・環境未来カップ 2009
- ・さっぽろこども環境コンテスト

②教育委員会からの報告

- ・札幌市学校教育の重点

【質疑応答・意見等】

①実施している事業について

<人材の育成>

[環境教育リーダー・環境保全アドバイザー制度]

- ・環境教育リーダーとアドバイザーの派遣について、件数のみになっているのですけれども、それには何か理由があるのか。(丸山委員)
- ・深い意味は全くございません。そういう利用者数もちろん押さえておりますので、次回会議でお知らせします。(事務局：環境局 宮佐)
- ・件数というのは、学校の人数もあり、子どもの人数が学年で200人いる学校もあるし、50人ぐらいいる学校もあるので、件数は価値があるのかなと思って聞かせていただきました。(白崎委員)
- ・それぞれの方がどんな得意分野があるのかということはこれでわかるのですけれども、お名前をクリックすればどういう活動をされているのかが具体的にわかれば、こういうものならやってみたいなということがあると思うので、そういうふうにされたらいかがでしょうか。(宮森委員)
- ・ホームページでそういう形がとれるかということは、今のご意見を参考にしまして、今後、検討していきたいとは思っています。(事務局：環境局 高田)

[総合的環境副教材の教員用手引書の作成]

- ・副教材ですけれども、今、どうやって使ったらいいのかという声が出てきているということで、3冊の方をそれぞれ教師用指導書とまでいかなくても、手引というものをつくっていきたくて進めているところです。既に、ワーキンググループ会議で2回メンバーが集まりまして、それぞれレイアウトは決まりました。(白崎委員)

[今後の推進策について]

- ・現在、環境プラザ主催の教員対象の研修、市民対象の各種講座というのは、具体的にどのようなものがどれぐらいの回数行われているのか。(丸山委員)
- ・教育委員会が主催している研修があり、その中で環境プラザの職員が講師となっている部分があります。また、市民を対象とした各講座をふやしていく部分につきましては、今後環境プラザが主催になって市民講座、例えばNPOの方や市民団体の方を講師としてお願いして市民講座を開くということを構想として持っておりますので、そういったものを充実させていきたいということを考えております。(事務局：環境局 高田)
- ・派遣実績の表で、平成21年度は10月末で去年の倍出ていますね。ということは、ことしはもっとふえますね。何か使いやすくする仕掛けみたいなことを市では何かやったのですか。(伊藤委員)

- ・環境教育リーダーについては、周知不足ではないか、もっと利用をふやせないかというお声をいただいております。そういったお声を反映させて努力した結果があらわれたのでは。また、新しく環境教育リーダーを追加で9名に登録いただいた中で、こういった活動に精力的に取り組んでいる方に加わっていただいて、その方が本当にリーダーとなって推し進めていただいたという部分も、この40件という数字にはあらわれているかなというところもあります。(事務局：環境局 高田)

<情報の共有・活用>

[環境プラザホームページのリニューアル]

- ・情報提供は受ける側、特に若い世代、次の世代が関心を持ったときに、これでどんどん深まる必要があると思います。オフィシャルなホームページよりもブログ風のを若い人は随分見るのだそうです。だから、どういうメディアか、どういう訴え方だと次の世代によく響くかということで、この新聞づくりのときも苦慮されたのでしょうけれども、カラーでいろいろやったり、どんな記事にしたらいいのか。さっきの市長の手紙というものは、あんな形のもの本当にどのぐらい読んでもらえるとか、相当、子どものこととか動きがわかっていた上で効果的にやっていく必要があるなと思っています。(小林委員長)
- ・ブログに原稿、写真を上げるために、利用者もしくはアドバイザー、リーダーに制度を紹介する役割の一部をご依頼することも考えてはどうか。(丸山委員)
- ・ブログということで言うと、もしかしたらいろいろな人があるので難しいのかもしれないのですが、環境プラザスタッフ、例えばその人の顔が見えるような仕組みにしては。(高坂委員)
- ・検討します。(事務局：環境局 高田)

[かんきょう元気通信・かんきょう元気新聞]

- ・市長の手紙やかんきょう元気新聞は、どのぐらい反響とか反応があったのですか。(高坂委員)
- ・数字的に見て表現するのは非常に難しいのですが、学校によっては市長のお手紙が来たということで、感想文をたくさん、クラスじゅうで、あるいは学年なのかもしれないのですが、取り組んで、感想文を皆さんに書いていただいたところもあります。
- ・かんきょう元気新聞が非常に興味深く、こういう豊かなものがあると、子どもたちの気持ちは育つだろうなと思って見させていただきました。中学校に対して似たようなメッセージを発信していく予定はどうなのでしょう。(小路委員)
- ・中学生にもできれば拡大していきたいという構想は持ちつつ、今、進めているところです。ただ、すぐに実現できるかどうかは分からない状況です。(事務局：環境局 高田)

<プログラムの作成>

[総合的環境副教材の修正・教員用手引書の作成]

- ・環境教育プログラムの方はどうなるのでしょうか。改訂とか、あるいは推進ということはないのでしょうか。(三木委員)
- ・現在は、このプログラムを周知ということで、まず、こちらが使えるものだとことを認識していただくことから始めようということで、周知に努めているところです。(事務局：環境局 高田)
- ・環境基本計画の改定なども絡んでくることだと思いますので、家庭、地域、職場への環境教育プログラムの周知という課題についてどのように取り組まれているかのご報告をいただきたいと思います。(丸山委員)
- ・環境教育基本方針の中心としまして、まず、子どもたちの環境教育という部分に重点を置いているという観点から、どうしても情報発信の部分で小学校、中学校、あるいは高校が中心となって進んでいます。しかし、例えばエコライフレポートなどで市民活動、環境活動を活性化させていこうということで、取り組みを高めていこうとしております。(事務局：環境局 高田)

- ・ご指摘の職場については、EMS、札幌で言えばエコメンバーという職場向けのプログラムを用意しております、それも着実に浸透してきています。(事務局：環境局 宮田)
- ・プログラムを改定する、しないは別として、まず周知するためにもワーキングはもう1回か2回、開いていく必要があると思います。(小路委員)
- ・環境教育プログラムについて、区単位でもいいし、小さい単位でもいいから、研究発表みたいな発表会をやって、実践を見てもらうことが物すごく大切なので、ぜひやっていただきたいと思います。(藤田委員)

<機会づくり・場づくり>

(事務局からの説明に対し、意見等なし)

②教育委員会からの報告について

- ・札幌市の学校教育の重点について、環境教育のところだけにびっくりマークというか、意気込みみたいなものが下に書いてあるので、ここの部分のことについて追加してご説明いただければと思います。(丸山委員)
- ・この学校教育の重点は、すべての先生方、全員に配付されていますので、ここの中には、基本方針のものと環境教育プログラムのことは、きちんと位置づけておかななくてはならないし、それらがベースとなってすべてのものが進んでいきますよということを学校にきちんと示していかなければならないということで、このようにびっくりマークをつけさせていただいて、進めさせていただいています。(事務局：教育委員会 田口)
- ・この環境と教育の連携での成果だと思えます。ですから、先ほど、地域、家庭、職場に直接環境サイドがという考えもあるけれども、学校という場を通してということも十分可能なわけで、そういった意気込みを確認させていただきました。ありがとうございます。(丸山委員)

4 議事(2)：その他

【来年度の体制について】

- ・年度末の第2回会議の際には、来年度以降の体制につきましても、何らかの形で提案をさせていただきたい。(事務局：環境局 宮佐)

5 閉会

(会長から閉会の挨拶)

－ 以 上 －